



ふれあい スポーツ

発行

滋賀県障害者スポーツ協会
〒520-0037 大津市御陵町4-1
滋賀県立スポーツ会館内

☎ 077-522-6000
FAX077-521-8118
Eメールアドレスshigassk@mx.biwa.ne.jp

11月6日・7日、「がんばるが、いっぱい。」をスローガンに、第35回全国身体障害者スポーツ大会(ハートフルくまもと大会)が熊本県民総合運動公園陸上競技場を中心に開催されました。

今日大会も晩秋の11月初旬の開催となりましたが、さすがは火の国熊本。初日こそ、秋の寒さを覚えたものの、2日目は動く汗ばむ程の気温まで上がりました。そして、全国から集まった選手による闘いも、大阿蘇の如く熱く燃え上がり、力強い声が天地に轟きました。

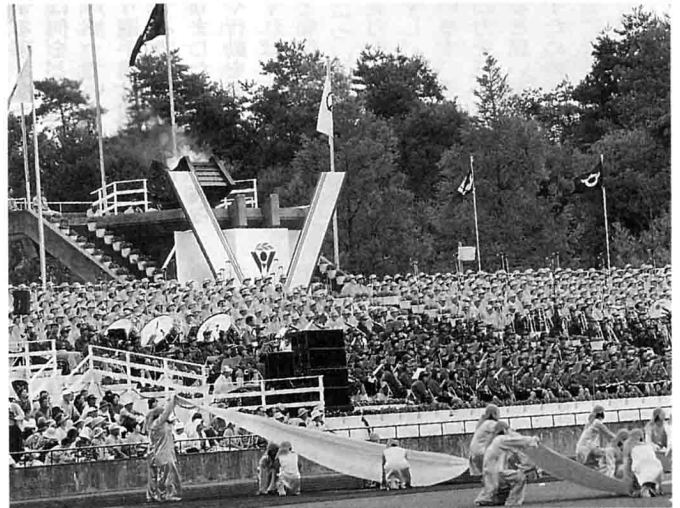
今日大会も11月開催となった為、寒さによる悪影響が心配されましたが、大会初日こそ気温が上がらなかったものの、2日目には



力強い入場行進(開会式)

第35回全国身体障害者スポーツ大会 ハートフルくまもと大会

ゆうあいピックしまね大会



感動あふれる開会式(集団演技の一幕)

「光る汗 光る笑顔に 光る愛」のスローガンのもと、ゆうあいピックしまね大会が10月2・3日、島根県の松江総合運動公園陸上競技場を中心に開催されました。

今日大会は初日が真夏日、二日目は気温が20度にも達しないという気温の激変に見舞われ、選手たちにとって苛酷な条件となりましたが、選手たちは悪条件をものともせず、全国から集まった、選手約二千六百人による素晴らしい戦いが2日間に渡り繰り広げられました。

今回は、台風に翻弄された前回大会程の悪条件ではなかったものの、初日はこの時期にしてはめずらしく、真夏日となりました。

日なたでは半袖でも平気な程ですが火の国熊本、あつたか九州を実感できる気温となりました。このように気温変化こそいささか大きかったものの、両日ともまずまずのコンディションで、選手達は競技に専念する事が出来、スタッフを安心させました。

また、競技以外についても、全国から集まった同志達の交流の輪も自然と広がり、選手相互は勿論、それを支える人々とも心の通う大会となりました。

次回、35年間の「身障者」スポーツ大会にピリオドを打つ、第36回全国身体障害者スポーツ大会(きらりんびっく富山)は、「自分にチャレンジ! あしたにチャレンジ!!」をスローガンに平成12年10月28日・29日、富山県総合運動公園富山県陸上競技場を中心に開催されます。

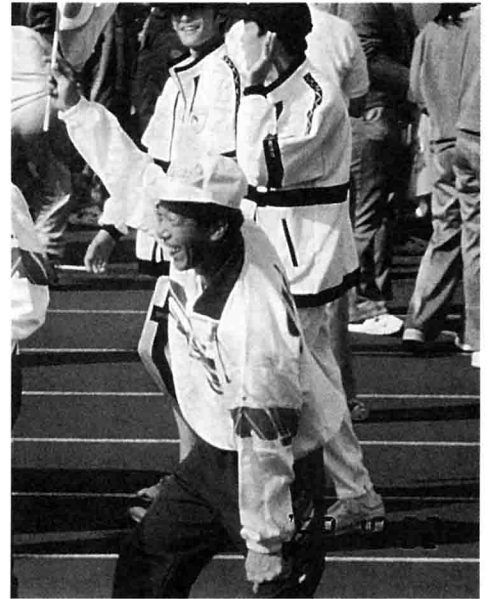
※二〇〇一年以降は知的障害者も加え、全国障害者スポーツ大会として開催される予定です。



光る汗 光る笑顔に 光る愛

ゆうあいピックしまね大会

◇ 参加感想文 ◇



開会式での倉谷監督

「しまね大会を振り返って」

個人競技監督 倉谷 義数

今回、監督として指揮を取る事になり、その責任の重大さを痛感すると共に初めての経験という事で一抹の不安を抱えながら、ゆうあいピックしまね大会に参加する事となりました。

当初は何をどうして良いのか解らず戸惑っていましたが、思ったより選手達は明るく、極端に緊張する者もなく気分的には楽になりました。そして、彼らの性格や行動を良く理解し、親身に接すればお互いの心が通じあえると痛切に感じました。

競技については、選手達は個々の実力を十分に発揮したと思いますし、何よりも結果が証明しています。そして、まだまだ未知の力を持った選手がたくさんいると思います。その力を引き出すための指導力というのが必要になってくると感じます。他府県のチームでも競技力アップのため、専門的な知識を

持った指導者がコーチとして参加しています。県スポーツ協会としてもより高いレベルの指導者の養成が不可欠ではないかと感じました。

大会を通じ残念な事一つあります。選手達は、自己新11個という素晴らしい記録で大会を終えましたが、卓球会場にいたため、その活躍を全て見届ける事ができなかった事が心残りです。

最後に、多くの人に支えられながら無事責任を果たす事ができましたのは、素晴らしいコーチの方々をはじめ、関係役員の皆様ならびに当日応援ツアーを組んで御指導、御協力頂いたスポーツ協会指導員の皆様、また強化合宿、強化練習から陰の力として御協力頂いたボランティアの皆様に対し、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



「ゆうあいピックに参加して」

しゃくなげ園 水口 誠

僕たちは9月30日から島根県に行きました。僕たちは7月から4回の練習をつんで一生けんめいやってきました。いままでの練習でやってきた事を10月2日、3日の競技で、練習の成果をはっきりだすことができました。僕は50m1位と、走り高とびは2位という結果になりました。岡村君は、ソフトボール投げで3位となり自己新記録になりました。田村君は、1回戦は勝ちのこる事ができました。でも、2回戦はおしくも負けてしまいました。結果は3位となりました。そのあと後夜祭では、いろんな屋台がでてたり、その他にはロックグループなどのコンサートがあり、僕たちのゆうあいピックを盛りたててくれました。この5日間いろんなことがありましたが、友だちもできてとても楽しい5日間でした。

僕をはじめみんなが楽しめたと思います。今思うとコンパニ



水口選手の走高跳



立幅跳での由井選手

「ゆうあいピックに参加して」

長浜養護学校 由井由美子

初めて、ゆうあいピックしまね大会に参加しました。

ゆうあいピックの練習を重ねていくうえで、しまね大会が近づいてきて、不安と期待でいっぱいでした。オンの人たちははじめ、僕たちのゆうあいピックにかかわってくださったみなさまにいろいろとお世話になりました。いい結果を残すことができました。

最後になりましたが、僕たちをささえてくださったみなさま、どうもありがとうございました。

ばいでした。

私は、100m走も立幅跳もとても緊張していて、今まで練習してきた成果を発揮できるか心配でした。そんな私を多くの友達、先生、役員のみなさんが応援して下さい、「がんばらなければ」という気持ちになり、全力で競技した結果、100m走、立幅跳も力を十分発揮し1位になることができました。とっても嬉しかったですし、よい思い出になりました。競技を通して、全国の人とたくさん友達になれたことも大きな財産になりました。

ゆうあいピックしまね大会を通して、「やれば出来る」ということなど、いろんなことを勉強させてもらいました。これからも大変なことがたくさんあると思いますが、ゆうあいピックで学んだことを胸に抱いてがんばっていいことと思います。

お世話になった役員のみなさん、応援して下さい。友達のみなさん本当にありがとうございました。

いろんなひととあった:

近江学園 寺村 元喜

今日ゆうあいピックしまね大会のしあいがありました。ほかのけんからきているせんしゅが、いっぱいいました。それにたかまどのみやどうひりょうでんかさまが、おみえになりました。それから、何時間かたつて、おべんとうを食べました。そして、フライングディスクかいじょうに、いどうして、かいかいしきをして、しあいがはじまつた。何時間かたつて、うけつけをすませて、それから、じゅんばんがきて、10とうちゆう7とうはいりました。ぜんいんがお

ディスタンス競技での寺村選手



わつて、けつかがでて、はつびようがあつて、ぼくは、だい2ばんになつて、ぎんメダルでした。2日目のしあい、とおくに

とばすほうをしました。きのうのようにうけつけをおわつて、じゅんばんをまつて、ぼくのばんがきて、とおくにとばしました。3とうとばしました。ぜん

た。みんなで金メダル三つ、銀メダル二つももらいました。学園に帰つたらみんなの前で團長先生が、「大変よくがんばりました」とほめて下さいました。銀メダルだったサッカー部は、もう来年は金メダルだと言いながら練習を始めています。

「ゆうあいピック島根大会」

信楽学園 瀧田 彰

バスで島根県まで行きました。なにわ一水に着いてからホテル内の話もあったしコンパニオンのじこしようかいがあつた。なにわ一水は景色も良かったし海も見えたしお風呂も大きかったです。ゆうあいピックでは愛知県も行ったし、茨城県も行った

し、島根県も行って卓球では今年で3年れんぞく優勝をしてとてもよかったです。そして金メダルをもらいました。十月四日はお城を見学に行つてとても大きかったです。神社とか行つておまいりをしました。ぼくはお城に登つたらとても景色が良かったです。信楽学園からは九人もゆうあいピックに参加しまし

ます。朝日りようは実習に行つていて三年生が入っています。朝は六時半におきて掃除をして七時二十分に食事。ほとんどの実習生は八時前に自転車で町内の工場に出かけます。ぼくは山中せい作所で実習をしています。蝶ばんのピン打ちと油ぬりをしています。五時まで仕事をがんばっています。



後夜祭での瀧田選手 (写真右)



「はじめてのゆうあいピック」

蒲生町 西村 健治

ぼくは、まちに待ったゆうあいピックに参加が出来たのでうれしいです。6月に、ゆうあいピックの予選があり、その後はゆうあいピックの強化練習・強化合宿がありました。練習では、

いんがおわつて、けつかがでて、ぼくは、41メートルそこそこでした。でも、3ばんのどうメダルでした。

よるに、こうやさいがあつて、しゃてきとか、スーパードールとか、ストラックボードとか、イライラボーをして、けんをもつて、クジのところをいろいろなしようひんとかをもらいました。

そのつぎの日、しまねのしゃかいけんがくをしました。ぼくは、いろんなところをいってしたこと、とうだいをのぼつたのが、すこしえらかった。でも、ちよつとだけおもしろかった。いろんなひととかにあつたり、ともだちとかもできたので、すこしたのしかつた。いろんなところにもいけた。それとフライングディスクかんけいのかたとかなにわ一水のはたらいにいる人たちとかにもお世話になったことは、ここからおれいもうしあげます。それに、ほかのかんとくさんとか、サッカーのかんとくさんとか、おつかれさまでした。一水のみなさんほんとうにありがとうございました。

フォーメーション、シユート練習、フリーキックやコーナーキックの練習などいろいろしました。ぼくは、攻撃の中で練習をしました。パスがつながらなかつたり、何人もかたまつてだんごになつたりと、うまくいかに、何回も、かんとくや、コーチに注意されたりしました。

けどいくつかはパスがとおつたり、だんごにならずうまく相手を、パスまわしでちらしたり、うまく出来たこともあつたのでそれはうれしかったです。十月二日はゆうあいピックの開会式がありました。大阪、北海道、長野といろいろな所から、たくさんの方が来ました。二日、三日と、ゆうあいピックの競技がありました。サッカーは一回戦は、宮崎県と当たりました。前半は、2点とれたけど、後半は、1点しかとれなかつた。それは、外からの攻撃が、なかなか出来なかつたのと、パスがぎつたことです。相手の宮崎が、に

また来年も行きたいです。

夜の後夜祭では、ごちそうがあつたり、コンパニオンの人たちと、物ぶつこうかんをしたり、写真をとつたりと楽しい夜をすごしました。



対長野戦を終えて…(西村選手はゼッケン7)



左・藤井弘子選手、中・藤井作三選手、右・青木コーチ

夫婦そろって金メダル

信楽町 藤井 弘子

6月6日にゆうあいピック島根大会の予選を終えて、夫婦そろって出場選手の決定通知が来たのが、6月25日でした。その後、信楽ボウルで練習を重ねました。

をおえてから島根へむけて出発しました。

そして、10月1日、しんじこボウルで前日練習をしました。10月2日、1回目の大会で優勝をめざして試合をしましたが、相手の人が上手なのでおどろきました。

強化練習が、7月3日・4日に近江ボウルでありました。コーチの青木さんを紹介してもらってから、3人が一緒になって近江ボウルで練習をしました。それから栗東ボウルや甲西ボウルでボウリングの練習をしました。練習の後、夕食を3人で一緒にいただいたりから、青木さんに送ってもらいました。8月21日、青木さんと私達夫婦で彦根の近江ボウルへ強化練習に行きました。

10月3日、2回目の大会でボランティアの人達が頑張れと言つて、はげまして下さいました。夫の作三も私も共に金メダルをとりました。うれしかったです。3日の夜に、後夜祭があつて、とても楽しかったです。

9月25日朝から彦根の近江ボウルへ行って練習をして、午後からゆうあいピックの説明会とユニフォームをもらいました。ユニフォームを頂いてうれしかったです。

10月4日島根の地元交流会で、松江城やワイン工場を見学、それから出雲大社へ行ってお参りをして来ました。

10月5日、滋賀県に帰ってきました。つかれたけれどとても楽しかったです。

9月30日、滋賀県庁で結団式

青木さんに色々とお世話になりました。そして田中先生やスポーツ協会の人達もお世話になり、有がとうございました。来年も頑張りたいと思います。

ゆうあいピックしまね大会滋賀県代表選手成績表

(☆:10/2、★:10/3 成績・結果)

氏名	性別	組	種目	記録	順位	氏名	性別	組	種目	記録	順位
山口 高司	男	少年組	☆100 m 競走	13"64	5	長谷川明美	女	青年組	☆走幅跳	3m18	2
			★立幅跳	2m19	4				★ソフトボール投	20m06	6
竹田 実	男	少年組	☆1500 m 競走	5'10"46	3	田中 佐和	女	青年組	☆走幅跳	2m54	5
			★立幅跳	2m59	1				★ソフトボール投	32m08	2
岡村 優	男	少年組	☆ソフトボール投	63"27	3	渡辺 敦史	男	青年組	☆25 m 平泳ぎ	21"83	3
			★走高跳	1m18	6				★50 m 平泳ぎ	53"39	2
片手 和也	男	少年組	☆走幅跳	4m97	2	古川 和彦	男	青年組	☆25 m 自由形	15"22	2
			★走高跳	1m45	1				★50 m 自由形	32"32	2
小山 慎司	男	少年組	☆100 m 競走	14"03	4	田村 真一	男	少年組	☆★卓球	1回戦 ○ 2-0 準決勝 × 0-2	3
			★200 m 競走	28"72	6				☆★卓球	1回戦 ○ 2-0 準決勝 ○ 2-0 決勝 ○ 2-0	1
水口 誠	男	少年組	☆50 m 競走	7"55	1	淵田 彰	男	少年組	☆★卓球	132・168・161・142 603点(4ゲーム)	1
			★走高跳	1m42	2				☆★卓球	131・103・124・92 450点(4ゲーム)	1
林 謙二	男	少年組	☆50 m 競走	7"57	3	藤井 作三	男	壮年組	☆★ボウリング	7枚	2
			★立幅跳	2m39	2				☆★ボウリング	41m31	3
若井 章吾	男	青年組	☆1500 m 競走	4'55"24	3	藤井 弘子	女	壮年組	☆★ボウリング	4枚	5
			★800 m 競走	2'23"05	2				フライングディスク	★ディスタンス	29m52
寺田 浩人	男	青年組	☆走幅跳	4m36	5	寺村 元喜	男	少年組	☆★ボウリング	29m52	2
			★走高跳	1m27	5				フライングディスク	★ディスタンス	52"64
由井由美子	女	少年組	☆100 m 競走	15"99	1	中井 善則	男	壮年組	☆男子400mリレー	52"64	1
			★立幅跳	1m91	1				竹田・山口・片手・林組	☆男子400mリレー	52"64

団体競技	○サッカー (第2位)	☆1回戦	滋賀県	3-0	宮崎県
		★準決勝	滋賀県	8-0	長野県
		★決勝	滋賀県	0-4	島根県

第35回 全国身体障害者スポーツ大会 ハートフルくまもと大会

◇ 参加感想文 ◇

「父はやったよ」

甲西町 藤谷 一夫

熊本大会でアーチェリー競技・水泳競技に出場してどちらも金メダルを獲得できた事はうれしい。がそれ以上にうれしいことがある。鮎子(長女、小3)が「大きくなったら手話通訳になりたい」と言ってくれたのである。「何故?」と尋ねると、「おかない。でもそんな気持ちになってる」と。

前にテレビドラマで、聴覚障害の母をもつ健聴の女の子が、周りの子から「おまえの親聞こえないんやろ」と意地悪される。でも家へ帰っても母に言わず、我慢していた。これを見ていた鮎子が「女の子の気持ちわかるわ」と言ったのである。同じ事をいわれたのか? なぎさ(次女、小1)にも尋ねるとやはり同じ事をいわれていた。親を悲しませたくない子どもなりに2人とも思っていたのか、娘が親を誇りに思えるようにと全国身障者スポーツ大会に参加しようとして2年前から考えるようになった。



お世話になった原コーチ、宗像さんと(左)藤谷選手

今年、熊本大会の県代表に選ばれたとき、妻(聴障)が、「娘を連れて応援に行くよ」と言ってくれたのである。

アーチェリー競技で矢を射続ける間、妻子が応援したのはとても心強かった。

2日目の水泳競技では、スタート台に立ったときから体中が

「全国大会に出場して」

志賀町 今西 温子

『ヨイドン』の銃声と同時に私にのしかかっていた重圧、緊張が一気に弾けた。その勢いを借りプールの壁を蹴った。1



サポーターさんと別れを惜しむ今西選手(熊本駅で)

秒でも0.1秒でも速くゴールへと向う。無我夢中の一瞬の出来事だった。歓声でふと我に返った時金メダルが胸に……50メートル平泳ぎ大会新記録が出た。

燃える感じがあった。合図と共に飛び込み、気がつくともゴールしていた。大会新はとれなかったが、自己新であった。応援席で手話通訳をしていたボランティアから聞いたが、妻が涙ぐみ娘が「お父さん1位だよ」とよるこんでいたという。何故泣いたのかと妻に聞くと、私が夢を追いつけ、そして実現させた事がうれしかったというのである。「次は君の番だよ」

悔いなく走れた

栗東町 竹村 忠夫

二度目の大会出場が悔いなく走れてとても満足。前回よりよりお天気に恵まれ視覚障害を持つ私は廻りの励ましと、感動拍手とで、お陰様で2個のメダルを取る事ができました。大会の関係者、サポーター、



伴走の川口コーチと走る竹村選手(200m競走)

思い返せば十数年前変形性股関節症と診断され以来年々悪くなる脚、とうとう杖なしでは歩行不可能とまでなり手術。リハビリの為にプールに通い始めた。最初バタ足すら出来なかった私が、クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ、と習得するのは決して容易なものではなかった。しかし泳ぐ楽しさを見つけた、それを励みに10年近く頑張ってきた。今私は個人メドレーの金メダルも手にしている。夢のようだ。いや夢が叶った。

強化練習が思い出される。厳しさを教えられた。自分の泳ぎを覆されたかの様な指導、正直泳ぎに自信をなくした事もあつ

た。しかし目的を持つ事で自分の泳ぎも磨かれた。今思うとあの時の頑張り、指導の結晶が金メダルとして返って来たのだと感謝で一杯だ。

閉会式ペンライトが揺れる中数々の思い出が蘇り涙があふれてきた。たくさんの人に支えられ励まされここまで頑張れた。この感激を今後一人でも多くの方に味わっていただきたく、微力ながらお力になればと願っている。最後になりましたがコーチの方々関係者の方々大変お世話になりました。皆さんの思い出と大きな力をありがとうございます。



地元交流での松井選手

「初めての全国大会」

能登川町 松井ひとみ

滋賀県代表として、国体に行けるとは夢にも思わなかった。それが現実であるという事を実感したのは、ハートフルくまもとの競技場に見学に入った時だった。と、同時に不安と緊張がよぎった。心臓がバクバク状態で、すぐに「帰りたい。」と思っていた。とにかく広かった。首を動かさないと全体が見れないのだ。こんなすごい所で競技をするのかと、まだ少し信じられていなかったのかも。結構、甘く考えていた私は、自信が一瞬のうちに無くなった気がした。早朝トレーニング。寒かったけどどらけないようにしようという努力をした。身体を動かそう。自分にとってベストな記録を出したかったから、気をゆるめない様にしていた。そしていよいよ開会式。皇太子様と雅子様が小さくつてよく見えなかったのがちょっと残念だった。この時かいつの間にか緊張もなくなり、バクバクの心臓が、ドキドキワ

クワクワって感じて、楽しい気分になっていった。ひらきなおつたのかも……。競技は全力でやったつもり。自分に納得のいく記録で金メダルを取った。二種目共。「やばい」と思った事もあったけど、コーチに教えてもらった事を落ち着いて思い出しながらやったら、自己新記録が出てすごく嬉しかった。満足な結果で大会に望めたと思う。

身障者の手帳を持つ事に、最初は抵抗があった。でも今回の事で手帳を持って初めて「よかった」と思う。とても名誉あることだと心から思います。すばらしい経験をさせて頂いた事、感謝します。そして、滋賀県選手団として、活躍できたことを誇りに思うと共に、一緒に国体へ行った選手の皆と、スポーツ協会の役員さんを始め、コーチの人達に、心からお礼と感謝を申し上げます。ありがとうございます。

この経験は、ずっと私の心の中ですてきな思い出として残していきたいと思えます。

いい思い出をありがとう!

八日市市 児玉 哲和

6月の選考記録会に参加して全国大会に出場が決定した時は嬉しさが半分と不安が半分でした。でもどれだけやれるか自分に挑戦するチャンスだと思えました。それから月一度滋賀県選手13名と役員の皆さんとで練習に励んできました。自己トレーニングもあまりやっていないので記録がのびず悩みました。でもやるしかない自分自身に言い聞かせて出発の当日をむかえました。妻や子供達が「お父さんがんばりや」高一の娘が「お父ちゃん大丈夫や自身をもって」と励ましてくれました。

熊本の競技場を見て、大きさと立派さに驚きました。「俺は

この競技場でプレーができるのだ」と思うとだんだんと闘志がわいてきました。開会式の時も緊張の連続でした。

一日目の立幅跳では「なんとか3位までには入賞したい。」とそればかり思い、全身の力を出しきりました。結果は2位でしたが僕は満足でした。二日目の競技は砲丸投で二日目になると緊張もやわらぎ、だんだんと欲がでてきて「俺は絶対金メダルを首にぶらさげたい。」と思

い、三投目でいい記録がでて心の中で「やった」と思わず叫びました。結果1位になり念願がかなつてうれしさが一ぱいでした。強化練習中に腰をいためてなかなかおらず、もうやめようかと思つた事がありました。が、

が始まったのです。

選手に選ばれた後の強化練習にもずつとついてきてくれました。しかし、強化練習はひと月に一回です。普段の鍛練こそ大切なことを、主人は、吉川英治の小説「宮本武蔵」のなかで、

「二人三脚」

大津市 中村なほみ

選考会に選ばれた時、主人は「一緒に来て!」、主人は「何でおまえが?」といながらも彦根までついてきてくれました。それ以来私たちの「二人三脚」



金メダルを胸に笑顔が戻った中村選手



児玉選手のダイナミックな立幅跳

やめなくてよかつたつくづく思っています。これも皆さんの応援のおかげだと厚く感謝しています。サポーターの人も親身になってお世話をしていたので本当に頭が下がります。

この大会で全国の皆さんと交流ができ、又滋賀県選手の皆さん役員の皆さんと友達になれて共に汗を流した仲間ですので生涯忘れません。再会するのを楽しみにしています。

好天に恵まれ僕に希望を与えてくれた「がんばるが、いつぱい。ハートフルくまもと大会」いい思い出をありがとう。

うすればいいのか、二人でいうもこのことについて話し合い練習してきました。

その結果、ソフトボール投げについていえば、私に最も合った投球フォームを作ることが出来たと思つています。

また、10月に入つてからは多くの方々から追い込み練習にご協力いただきました。その結果大会では6人の出場選手に競い勝つことが出来ました。

これもひとえに大会関係者、コーチ、指導員の皆様方のご指導の賜物と思ひ感謝しています。本当に有難うございました。

武蔵が跳躍力をつけるため畑に麦?を植え、種のときから毎日毎日飛び越えることにより、その成長にしたがって飛び越える高さを養つたという話を例えにして、私を励ましてくれました。

一步一歩基礎体力、ジョギングにストレッチ、二人で作ったメニューのもと、これまで主婦の専業の生活の私にとっては本当にづらい毎日でした。だけど、やればやる程に記録が伸びたりして、しまいにそれが楽しみになってきたのも驚きでした。

実技では、身障者には自ずと出来ることと出来ないことがあります。出来る範囲で最善をつくすこと、また私自身の体力の限界もあります。そのなかでど



結団式で選手宣誓する齋藤選手



二回目の選考記録会で「がんばるが、いっぱい」をスローガンに第35回全国身体障害者スポーツ大会(ハートフルくまもと)

大会 湖国の代表滋賀県選手団の一員として初参加させて頂く機会を得て光栄の限り。 出発の当日、滋賀県公館での結団壮行式で選手宣誓の役を努

めさせていただき、知事、県議会議長から心温まる激励・握手を受け、改めて選手としての実感が湧いた。まず心から感謝しお礼申し上げます。 県代表に選ばれた以上闘志を全身に「今日は二度と来ない、その時々を最高に」の熱い思いで練習にも熱が入り、大会競技当日には悔いのないものにしたの一心で頑張る日々が続いた。身体障害者のスポーツの原点はリハビリで機能の回復と訓練を図ることに目的があり、今迄から県障害者福祉センターで筋トレ、水泳水中ウォーキング等継続トレーニング回数を増し、

「もう死ぬかもしれないなあ」と思っていた自分が今、走れているのではないかもっと走れることを実感し、走れることを楽しもうではないかと気づいた。 団長をはじめ、コーチの方々の親切そして暖かいご指導のもと、記録も徐々に上がっていき熊本へ向かった。 熊本では、県民あげての歓迎援助、サポーターさん等の熱心な介護に感激し、競技場の広さに驚き、観衆の声援に緊張し、後夜祭ではしゃいだ。結果は、予想どおり、記録的にも賞賛できるものでなく、メダルも輝いてなく、少し寂しい思いもしたが、自分なりにがんばり、楽しく走ることができたので、他ではできない本場に「いい体験」ができ、出場できてよかったと思う。

健康と体力の増強、機能維持向上に努めていたが足腰の不調、腕の痛みは改善されずに4ヵ月間の強化合宿、練習会の伸び悩んだ記録で劣等生の悲哀を味わっていた。しかし、或るお寺の門に「氣にしても苦にするな」の文字で救われた思いがした。 開会式の入場行進で満場の人達の歓声、拍手、拍手で迎えられた事で感激し、そんな苦悩も何処かに消えていた。 競技一日目の砲丸投げは2位で銀。二日目のソフトボール投げは5位に終わったが二種目共に自己新記録であった。この記録は練習にコーチの激励アドバイス、



「今日は二度と来ない」

その時々を最高に

大津市 齋藤 伸

いい体験ができた 草津市 長江 優人 「スポーツは、参加することに意義があり、入賞しなくても意味がない。メダルの色は、時の運、取れなきや、寂しいものである。」

選考記録会に障害福祉係の担当者にお誘いされるまま、軽い

気持ちで望んだら、結果は、全国記録には、著にも棒にもかからない記録だったので、選ばれたと聞いたとき、「驚き」と同時に「少しうれし」と「不安」が垣間され、時が経つにつれ、「不安」が増大していった。その不安とは、陸上競技に全くの素人だということと、仕事と練

習の両立のこと、そしてそれに伴う二次障害の不安だった。そのため、一時は、「どうがんばっても全国記録に届きそうもない」辞退しようかとも考えたが、今の機会をのがしたら、二度とチャンスがなくなるような気がして、「やるだけやって結果は二の次」と思い、出場させていただくことにした。 慣れない上、素人練習で肉離れをし、また不安が不安を呼ぶ。強化練習でのランニングのときは本当に辛くて「なんでしんどい思いをしなくちゃいけないの?」と思うときもあったが、ある時、ふと中学一年のときの事を思い出した。当時、体調を崩し、座ることもままならず、約半年間寝たきり状態の中で、回復しない先輩たちの事を考えると「僕も一生このままかあるいは

「もう死ぬかもしれないなあ」と思っていた自分が今、走れているのではないかもっと走れることを実感し、走れることを楽しもうではないかと気づいた。 団長をはじめ、コーチの方々の親切そして暖かいご指導のもと、記録も徐々に上がっていき熊本へ向かった。 熊本では、県民あげての歓迎援助、サポーターさん等の熱心な介護に感激し、競技場の広さに驚き、観衆の声援に緊張し、後夜祭ではしゃいだ。結果は、予想どおり、記録的にも賞賛できるものでなく、メダルも輝いてなく、少し寂しい思いもしたが、自分なりにがんばり、楽しく走ることができたので、他ではできない本場に「いい体験」ができ、出場できてよかったと思う。

「2回目の全国大会」

近江八幡市 重田 浩

今回、2回目の出場選手として選ばれ、本当に良かったと思っております。

11月6日・7日の両日にわたり、熊本県で開催された「第35回全国身体障害者スポーツ大会」(ハートフルくまもと大会)ではソフトボール投げと水泳に出場しました。 大会1日目はソフトボール投

ス、又大会が迫った10月隔日に皇子山多目的グラウンドで夜間照明の中、中村さんと自主練習。それを支援し遅く迄ボール拾いをして呉れた大津市身体障害者スポーツ協会の仲間達。暖かく応援して頂いた結果と感謝し、今後選手として出場される人達に自分の経験を糧として、積極的に応援したいと思う。

最後に、この大会に係った全ての人達に対して感謝の念に溢れています。特に熊本のサポーター、ボランティアの方々アリガトウ!

これら皆、監督やコーチに苦勞をかけ、お世話になったお蔭だと考えております。 また、現地でお世話頂いたサポーター、役員の方にもあらためてお礼を申し上げます。ありがとうございます。



長江選手の力走(100m競走)

「もう死ぬかもしれないなあ」と思っていた自分が今、走れているのではないかもっと走れることを実感し、走れることを楽しもうではないかと気づいた。 団長をはじめ、コーチの方々の親切そして暖かいご指導のもと、記録も徐々に上がっていき熊本へ向かった。 熊本では、県民あげての歓迎援助、サポーターさん等の熱心な介護に感激し、競技場の広さに驚き、観衆の声援に緊張し、後夜祭ではしゃいだ。結果は、予想どおり、記録的にも賞賛できるものでなく、メダルも輝いてなく、少し寂しい思いもしたが、自分なりにがんばり、楽しく走ることができたので、他ではできない本場に「いい体験」ができ、出場できてよかったと思う。

「もう死ぬかもしれないなあ」と思っていた自分が今、走れているのではないかもっと走れることを実感し、走れることを楽しもうではないかと気づいた。 団長をはじめ、コーチの方々の親切そして暖かいご指導のもと、記録も徐々に上がっていき熊本へ向かった。 熊本では、県民あげての歓迎援助、サポーターさん等の熱心な介護に感激し、競技場の広さに驚き、観衆の声援に緊張し、後夜祭ではしゃいだ。結果は、予想どおり、記録的にも賞賛できるものでなく、メダルも輝いてなく、少し寂しい思いもしたが、自分なりにがんばり、楽しく走ることができたので、他ではできない本場に「いい体験」ができ、出場できてよかったと思う。



公式練習日の重田選手



下村選手の砲丸投

長かった様な短かった様な

石部町 下村 徹
長かった様な短かった様な6日間でした。大会に出場できて本当に良かったと思う。

これで滋賀県に帰れる

大津市 越口 玲奈
11月4日から9日までの熊本で行なわれた全国身体障害者スポーツ大会に、滋賀県代表としてやり投げとハンドボール投げに出場しました。

秋空に恵まれた開会式には、皇太子殿下、雅子様がご来場下さいました。入場の時私は、嬉しくて緊張しました。こういう機会は二度とないだろうと思いましたが。

5日の早朝練習は、川沿いなので身を切るぐらいとても寒かった。私は練習中でも金メダルを取る事が頭から離れなかった。6日の夕方には私はやり投げに出た。前年度皇子山で開催された全国聾話学校体育大会に出場して、優勝した私の好敵手が来ていたので、私は「あちゃ〜今

次は世界聾者競技大会だ!

竜王町 臼井 渉

初めて身障者スポーツ大会に参加しました。熊本は今回で2回目です。競技場の立派さには驚きました。一番びっくりしたのはサポーターの皆さんがたく

回は勝たなくちゃ」と闘志を燃やした。が、3位になった。ト

イレに入り涙を流した。

7日昼前にいよいよハンドボール投げです。「金を取るぞ!」

と心に誓い投げた。金が取れました。これで滋賀県に帰れます。

さんおられたことでした。滋賀

県選手団には5人のサポーター

についていただきました。サポ

ーターはほとんどが熊本県立大学の学生さんたちで、大学生はすごいなあと感じました。また選手団の中には車椅子の方もおられ、いろいろとお話をする

「ホッ」としました。

サポーターの方々には、応援

やいろいろお世話になりました。

草野舞子さんには一人っ子同士

でとても可愛がってもらった。

「こんなお姉さんがいたら

な。」とつくづくと思いました。

ことで大変勉強になりました。

開会式、全国からいっぱい集

まってきたいて、わくわくドキ

ドキしていました。本物の皇太子殿下も見られたし、熊本に来て良かったなあと思うしました。いよいよ試合です。僕は100mと200mに出場し

スポーツ協会の方々には出発

前からいろいろと激励して頂き

有難うございました。この時点で私の両方にはメダルの重みを感じました。

学校の陸上部監督の松本先生

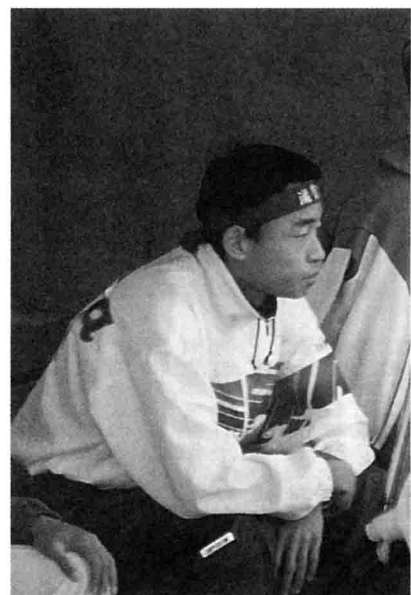
の厳しい練習のもと頑張りました。もともとやり投げの練習をしていたら金が取れていた

かもわかりませんでした。全国

大会に出場できました事を誇りに、青春の一ページとして大切に

にして行きたいと思えます。これから何事にもこの気持ちを忘れずに前向きに頑張ってください

と思います。皆様いろいろと有難うございました。



緊張した面持ちで競技を待つ臼井選手

ます。体は大きい方でもなく、強い選手も出場しているのあまり良い状態とはいえませんが、ライバルの森君との勝負を楽しみにしていたので集中していきましました。結果は3位でした。あつという間でした。あまり調子が良かったわけでもなかったけど、スタートも出遅れが良くなかったと思います。次の日昨日のことは忘れて気持ちを切り替え得意な200mに集中しました。「絶対優勝してやるぞ!」

という気持ちで試合に臨みました。スタートは出遅れたものの後半は伸びることができ、1位でゴールができました。でも記録には満足していません。就職も決まり、高校生活も後わずかになりました。熊本大会は終わってしまいましたが、次は世界聾者競技大会に向けて頑張っていこうと思います。ありがとうございます。



穴井義夫選手(今津町)の走幅跳

※穴井選手は大会後、目の手術で入院された為、参加感想文の

提出が締め切りに間に合わず掲載する事が出来ませんでした。



表彰を受け、喜び一杯の越口選手(中央)



第35回全国身体障害者スポーツ大会 滋賀県選手成績表

(上段は11月6日、下段は11月7日の成績・結果)

氏名	障害区分	種目	記録	順位	氏名	障害区分	種目	記録	順位
白井 渉	聴覚・平衡・音声・言語機能障害	100 m 競走	12"08	3	竹村 忠夫	視覚0から光覚弁まで	200 m 競走	35"73	3
		200 m 競走	24"57	1			立幅跳	1 m98	2
下村 徹	下肢麻痺で座位バランスあり	砲丸投	5 m12	1	齋藤 侂	両下肢不完全	砲丸投	5 m50	2
		ソフトボール投	37m61	1			ソフトボール投	26m64	5
穴井 義夫	視覚その他	100 m 競走	13"49	3	越口 玲奈	聴覚・平衡・音声・言語機能障害	槍投	29m58	3
		走幅跳	4 m29	3			ハンドボール投	27m62	1
長江 優人	上肢に不随意運動を伴う走可能	100 m 競走	25"42	8	松井ひとみ	片下肢不完全	ソフトボール投	27m44	1
		ソフトボール投	22m31	4			砲丸投	6m56	1
重田 浩	両下肢不完全	ソフトボール投	26m03	8	中村なほみ	片下肢不完全	ソフトボール投	17m92	1
		25 m 自由形	20"35	3			立幅跳	1 m14	2
藤谷 一夫	聴覚・平衡・音声・言語機能障害	アーチェリー	585点	1	今西 温子	両下肢不完全	50 m 平泳ぎ	1'04"53	1
		25 m 自由形	16"09	1			100m個人メドレー	2'08"68	1
児玉 哲和	手部切断	立幅跳	2 m03	2					
		砲丸投	7 m22	1					

※太字は大会新記録

9月4日(土)・5日(日)、水口町において「ハンディキャップサッカーフェスティバルinびわこ」を開催致しました。

この事業は今年度の特別事業として社会福祉・医療事業団の助成を受けて開催したもので、初日はサントピア水口を会場に講演会等を行いました。内容は筑波大の後藤助教の講演及び全日本育成会の松友常務理事、筑波技術短大の及川助教、Jリーグ元FIFA主審の森津氏、そして信楽学園の古谷氏のメンバによるパネルディスカッションでしたが、終始大いに盛り上がり、会場は予想外の超満員となりました。

2日目は会場を水口スポーツの森に移し、中部・近畿からの12チームの参加による競技大会「全日本知的障害者サッカー選

ハンディキャップサッカーフェスティバルinびわこ



手権(西日本大会)を開催しました。当日は絶好の好天となり選手達は日頃の練習の成果を存分に発揮。どのチームの選手もボールを追う表情は真剣そのもので、素晴らしいプレーには敵見方の区別なく、スタンドから大きな声援が送られていました。特にこの日の為に日々練習を重ねてきた滋賀県勢の活躍は素晴らしく、結果、攻守にバランスが取れたFC信楽Aが実力通りの活躍をみせ、決勝戦でも明光ワークス(大阪府)を4対0で下し、地元で優勝の栄冠をもたらしました。

◎今大会の主な成績・結果

優勝 FC信楽A

準優勝 明光ワークス(大阪府)

○2回戦敗退 FC信楽B

○1回戦敗退 FCアルビレオ

◆ 第37回 ◆ 県障害者スポーツ大会

アーチェリー競技

卓球競技

アーチェリー競技

8月29日(日)、県立アーチェリー場に於いて、第37回滋賀県障害者スポーツ大会(アーチェリー競技)を開催致しました。

今年も8月の最終週の開催となり、会場には日陰部分が殆どない為、残暑の厳しさも危惧されましたが、当日は天気こそ悪くなかったものの、湖東の名刺を吹き抜ける風には明らかに秋の気配が感じられ、この時期としては比較的過ごしやすく、選手はプレーに集中する事ができました。

今大会では競技内容を大きく改め、特に従来この競技の導入部分として位置付けられていた

15m競技については細分化し、競技への導入部の色彩を強めた

10m競技と、30m競技へのステップとしての20m競技に改めました。また、これまでアーチェリー競技では県大会記録を設けていませんでしたが、30m競技のみを対象に、県大会をダブル

ラウンドに改めた第35回以降の記録を正式に県大会記録として扱う事になり、それを上回った者と、全国身スポ大会記録を上回った者については、他の県大会と同様に表彰する事になりました。

この結果、競技はレベルに合わせて更に分化する事になり、初心者にも上級者にも今迄より満足できる大会となりました。



より競技レベルが上がった30mダブルラウンド競技

しかし、参加者数については前年と同様の78名にとどまり、大きな改革を行なったわりには初心者の導入について十分な結果が得られず、残念に思われます。

近年、障害者も高齢化が進み、県大会の全競技で参加者数の減少傾向が見られますが、そのような時代こそアーチェリーの様な「静のスポーツ」の存在価値が認識される時代だと思われま

走る、跳ぶ、泳ぐというハードな運動をとまなう事だけがスポーツではありません。アーチェリーは高齢者が生涯スポーツとして付き合えるスポーツです。
◎県大会記録を上回った者
藤谷一夫(甲賀)聴覚 五三二点

卓球競技

9月19日(日)、草津市総合体育館において、第37回県大会(卓球競技)を開催致しました。

今大会も9月の中旬の開催となりましたが、アリーナ内は過ごしやすいく湿度・湿度で、丁度少し運動をすると汗ばむというスポーツの秋に相応しい環境の中で、心地良い一日を過ごす事ができました。

この大会は、以前はトーナメント方式で行なわれていたため1回戦で負ければ1試合のみしか出れず、更に極端な場合は1試合もせずに終わるといった例もありました。そこで前大会から競技形式をリーグ戦約3人のリーグ戦を基本とした競技形式に改め、今大会では前大会の良



今年もリーグ戦形式で開催しました。

点を継承しつつ、例えば試合が連続する点などを改善する事を目的に更に内容を改めました。

しかし、今度は毎年連続の変更し運営側が困るというトラブルに見舞われ、参加者の立場のみ主眼をおいた変更は運営がつかないという厳しい教訓も得られました。

一方、地区対抗部門においては、昨年6年振りに全13地区揃っての大会となりましたが、今年には近江八幡地区からの参加者がなく、残念ながら12地区での大会となりました。来年は全地区揃っての大会が望まれるところです。

勝で飾った大津地区が僅差で破れ、第17回大会以来20年振りに湖南地区が優勝を果たしました。また、かつての優勝の常連甲賀地区は3位となりました。

なお、各地区の成績は次の通りです。

優勝	湖南地区	71点
準優勝	大津地区	65点
第3位	甲賀地区	47点
第4位	草津地区	43点
第5位	彦根地区	26点
第6位	八日市地区	20点
第7位	長浜地区	15点
第8位	湖西地区	12点
第9位	守山地区	9点
第10位	湖東地区	7点
第11位	湖北地区	2点
第12位	愛知犬上地区	-2点

協会単独主催事業

内部障害者も初参加!

第14回グラウンド・ゴルフ大会 & 第2回ビームライフル競技大会



ティーショット前の緊張する瞬間

グラウンドゴルフ大会

10月4日(日)、県立長浜ドームにおいて、第14回滋賀県障害者グラウンド・ゴルフ大会を開催致しました。

58打から68打のわずか10打の間で1位から30位までが犇めく結果となりました。

結果、上位常連のチームに食い込んだ五個荘町Aチームが58打の同スコアの信楽町Aチームを年齢差で下し、見事優勝を果たしました。

なお大会結果は次の通りです。第14回滋賀県障害者グラウンド・ゴルフ大会結果

今回大会は前回大会迄の良かった点と反省点を総括し、3人一組の団体種目のみである点や同打数時に高齢者を上位にするという様な基本的な点は変更を避けて、運営上の小改善を積み重ねるといふ方式がとられました。その結果、これまでの大会に比べトラブルが激減し、例年になく運営を円滑に行なう事ができました。

また、これまで協会の事業には一切参加頂けていなかった内部機能障害の方々も初めて参加頂ける事になり、その意味でも価値のある大会となりました。

競技はスムーズな運営に助けられてか、好スコアが続出し、

- 優勝 五個荘町A
- 準優勝 信楽町B
- 第3位 彦根市B
- 第4位 栗東町A
- 第5位 草津市B
- 第6位 蒲生町A
- 第7位 愛東町A
- 第8位 大津市B
- 第9位 土山町B
- 第10位 伊吹町B

ビームライフル大会

11月28日(日)、県立障害者福祉センターにおいて、第2回滋賀県障害者ビームライフル競技大会を開催致しました。

当協会では県ライフル射撃協会のご協力を仰ぎ、この種目の普及を図つてまいりましたが、今年度からは用具整備にも取り組む事となり、より主体的に大会を運営できる体制を作つていきたいと考えております。

また、肉体的な負担が極めて軽い種目として、当協会の事業ではグラウンド・ゴルフ大会についても参加頂ける事とし、実際に多

- スベースの都合上省略させて頂きませんが、各市町村に通知しておりますのでご確認下さい。
- ★ホールインワン賞 (2・7・8ホール対象)
- 彦根市 尾田すえ乃
 - 八日市市 笠原千恵子
 - 草津市 大門久実夫・丸山和子
 - 志賀町 寺岡喜太郎
 - 水口町 畑中卯三郎
 - 土山町 清水 さだ
 - 信楽町 澤 和男
 - 安土町 福川 哲子
 - 日野町 中澤 敏男
 - 五個荘町 伊野 嘉晴
 - 愛東町 中澤 忠次
 - 湖東町 前川 幸男
 - 愛知川町 西沢 隆国吉秀次郎
 - 米原町 堀部 専蔵
 - 浅井町 清水 博
 - 新旭町 永井 嘉信



(目視による)一般射撃競技の一コマ

くの参加を得る事が出来ました。このような事が反映してか、今年大会の参加者は103名となり、遂に同系等のスポーツであるアーチェリー大会の参加者を大きく上回る事になりました。

なお、各部の入賞者は次の通りとなります。

- 男子(一般射撃)
 - 優勝 深尾 重雄 (草津市)
 - 準優勝 竹内 良雄 (浅井町)
 - 第3位 竹本 和夫 (木之本町)
 - 女子(一般射撃)
 - 優勝 篠村 光子 (日野町)
 - 準優勝 武村美代子 (八日市市)
 - 第3位 岡本千代子 (大津市)
 - 男子(音響誘導装置使用)
 - 優勝 竹村 忠夫 (栗東町)
 - 準優勝 谷口 稔 (野洲町)
- ※それ以外の成績については市町村に通知しておりますので、ご確認下さい。

八田智洋協会顧問、厚生大臣表彰

(身体障害者社会参加促進功労者部門)を受賞!



当協会顧問で前副会長の八田智洋(はつたちひろ)氏が、平成11年度の身体障害者等社会参加促進功労者として、厚生大臣表彰を受けられました。

同氏は昭和50年に第11回全国身体障害者スポーツ大会に出場

された事を皮切りに、選手として

は国際大会に出場3回、指導者としては、滋賀県選手団の監督・団長として参加される事16回、また水泳競技に於いては日本選手団のコーチ、監督を務められる等、選手としても指導者としても比類ない活躍をされてこられました。また、組織を指導される立場としても、当協会副会長として20年の永きに渡り協会牽引の原動力であった事をはじめ、現在も近畿ブロック障害者スポーツ指導者協議会会長である等、多くの役職を歴任さ

れています。更に、八田氏が提唱された、「障害者自らが事業を主体的に運営し、そして参加する。」という考えは、日本の障害者スポーツ界全体に大きな影響を与え、この世界では、滋賀県の八田を知らぬものはいないと言われる程でした。

このような抜群の功績に対し、平成9年度には滋賀県知事表彰と(財)日本身体障害者スポーツ協会の特別功労賞を受賞されており、今回の受賞はそれらの功績が評価されたものであり、障害者スポーツ分野のみの功績での受賞者としては県内から初となります。

同氏の受賞は協会にとつて大きな誇りである事は勿論、広く日本の障害者スポーツ界の誇りでもあると考えております。今後は、この栄冠を受け継ぐ方が一日も早く県内から輩出される事を希望します。「おめでとう!八田さん」

墓銘碑

○10月9日、当協会の指導員として協会事業にご尽力を頂いてきた、吉田益夫(よしだますお)さんが、病气によりお亡くなりになりました。享年55歳。

吉田さんは指導員としてご協力を頂いていた他、永年に渡り彦根地区の評議員としても活躍されており、平成9年度には協会の障害者スポーツ功労賞を受賞されるなど、協会活動に積極的に携わって頂きました。

吉田さんの急逝は協会にとつて大きな損失です。

○10月26日、当協会の元事務局長で賛助会員(個人)にもなつて

Eブロック2位
山田恵三・他府県選手組
▼第13回東海身体障害者バトミントン選手権大会
平成11年10月3日(日)
於 名古屋身体障害者スポーツセンター

男子Cブロック3位
山田恵三・乾澤 歩 組
女子Cブロック2位
中村節子・他府県選手組
▼第16回日本身体障害者水泳選手権大会
平成11年9月11日(土)・12日(日)
於 宮城県総合運動公園総合プール

(男子50m平泳ぎ) L4
3位 田邊 智 35秒19
(男子50mバタフライ) L4
1位 田邊 智 41秒01
▼ねりんピックびわこ・レイカディア県民大会 '99レイカディアマスターズ水泳大会
平成11年9月5日(日)
於 大津市皇子が丘公園屋内プール

(男子25m平泳ぎ)
○古川 和彦 14秒94
○二木 清文 16秒46
○光野 大志 16秒79
○八戸 悟 16秒95
(男子50m自由形)
○古川 和彦 33秒22
○田邊 智 35秒56
○斉藤 政信 38秒14
○中村 金蔵 51秒94
(男子25m平泳ぎ)
○八戸 悟 22秒31
○渡辺 淳史 23秒02
○光野 大志 (失格)

(男子50m平泳ぎ)
○野瀬 高明 1分20秒59
○渡辺 淳史 47秒25
(男子25m平泳ぎ)
○斉藤 政信 24秒90
(男子50m背泳ぎ)
○二木 清文 46秒59
○野瀬 高明 1分07秒92
○中村 金蔵 1分14秒58
(男子50mバタフライ)
○田邊 智 40秒28
(女子50m自由形)
○今西 温子 50秒06
(女子25m平泳ぎ)
○堀井 久子 29秒52
(女子25m背泳ぎ)
○今西 温子 28秒72
○堀井 久子 30秒33
※太字は年齢別優勝者

各種大会結果

▼第5回トップシヤトル滋賀バトミントン大会
平成11年8月29日(日)
於 栗東町民体育館
Bブロック2位
乾澤 歩・橋本竜次 組

事務局だより

◎古切手等回収協力者

- 大石 康雄
- 板倉 郁子
- 八木沢秀子
- 野瀬 高明
- 北村さよ子
- 山川 昭市
- 山田 次子
- 山下 巧
- 東野 秀和
- 高月町
- 泉障害福祉課

※以上集まった古切手等は県のボランティアセンターに送らせて頂きます。ご協力ありがとうございました。

編集後記

○一九〇〇年代もあと少しで終わろうとしています。県内各地でふれあいなどをテーマにしたさまざまな催しが開かれています。

○本年10月2・3日に開催されたゆうあいピックしまね大会で、本県選手団は金9、銀12、銅7のメダルを獲得し、自己新記録も11と好成績を挙げました。

7月からの強化合宿や練習会で汗を流し頑張つてこられた努力の結果だと思えます。この大会出場で得られた貴重な体験をこれからの生活に生かしていただきたいと思えます。指導員・協力員の皆さんありがとうございます。

○当協会顧問の八田智洋氏が平成11年度障害者社会参加促進功労者として厚生大臣表彰を受賞されました。永年にわたり障害者スポーツの振興・発展に努力してこられた功績によるものです。県内からは八田氏が初の受賞者となりますが、これまでの活躍や実績は当協会の誇りでもあります。本当におめでとうございました。

○当協会の元事務局長、数野実氏(74)が10月26日にお亡くなりになりました。同氏は昭和59年から平成4年までの9年間当協会の事務局長として、協会発展のためご尽力いただきました。このご尽力に感謝しつつご冥福をお祈りいたします。

